

社会福祉法人 蒼溪会

蒼溪通信

令和3年 Vol.17

2021年 9月1日



『スイカ』 K.K

—常に、人と地域の最幸を創造する—

事業所ビジョン

「当たり前前のことを、当たり前前に行く相談支援事業所になる」

令和3年4月から相談支援センターカマラドは、木村良輔リーダーを中心に新たなスタートをきりました。今どんな思いで仕事をしているのか、みんなで語ってみました。

Q「相談支援事業所の当たり前前ってなんでしょう？」

時田さん：“利用者に会うこと”、“事業所に訪問や連絡すること”、“記録を書くこと”、“書類を提出すること”。

木村さん：本人の希望を確認して、一緒に進んでいくこと。時には、こちらから必要なことを提案して、進んでいくこと。また、利用している事業所を巻き込んで、一緒に進んでいくこと。

鹿山さん：利用者さんを受入れること、その困りごとを否定せずに、“そうなんだね”と受け止めること。あくまでも本人に決めてもらうこと。

充恵さん：一人ひとりが自分自身の納得できる人生をおくるための一助になること。ケアマネジメントは、相談支援専門員の武器ですから一生懸命取り組みます。



Q「相談支援専門員として、当たり前前のその先にどんな社会を目指したいですか？」

時田さん：利用者が必要とするサービスを利用しながら、生活していける環境を作ることと、信頼を得られる事業所が増えること。

木村さん：利用者がサービスを使っていることに対して、マイナスな感情が無く、気持ちよく使いたいサービスを使えるようにしたい。病気や障害を抱えた人たちに対しての偏見が少しでもなくなっている社会になっていること。

鹿山さん：パラリンピックの選手が義足と一体になって、自分の身体のように扱えているように、相談することが恥ずかしくなく、後ろめたくなく、気軽に相談できる社会になると良いと思います。究極は福祉がなくても生きづらさを感じる人たちが自ら決めて、普通に生きられるようになればと願います。

充恵さん：相談支援を当たり前に行うことで、障害があっても生活しやすい地域になっていくことが可能になる。誰もがここで暮らしたいと思える地域になれば良いと思います。

私たちカマラドの相談支援専門員は、利用者と真摯に向きあい「利用者さんが求めているものは何か？」に寄り添って仕事をしています。専門職として当たり前にすることはします。そして計画相談から住みやすい地域を目指していきます。

井出みゆきさん インタビュー

7月1日より一緒に働く「井出みゆきさん」に、カマラドの様子を聞いてみました。井出さんは、高齢分野で長年仕事をしてきましたが、障害者との出会いが増え、どのように支援をすれば良いのか？高い問題意識をもって仲間になってくれました。

質問：相談支援センターカマラドで働いて感じたことは？
メンバーさんやスタッフみんなが、笑顔で仲がよいところが印象的です。

質問：今後の抱負

初任者研修を受講して、早くメンバーさんの自己実現の旅のお手伝いができるようになりたいです。。

今後、カマラドの相談支援専門員として、井出さんがみなさんの事業所に行く機会があると思いますので、温かくご指導ください。今後とも相談支援センターカマラドをよろしく願います。



各事業所からのお便り



■蒼溪会本部

コロナの感染者数が増えるなか、各事業所が話し合いながら予防に取り組んでいます。雨上がりの空に映し出された虹が、普通に暮らせる日常の有りがたさを感じています。



■ケール

農業部門では、エゴマの栽培が始まりました。また、JAの共選所作業や近隣桃農家の作業にも挑戦しました。北病院内売店では職員の中込さんも笑顔でメンバーさんと一緒に頑張っています！



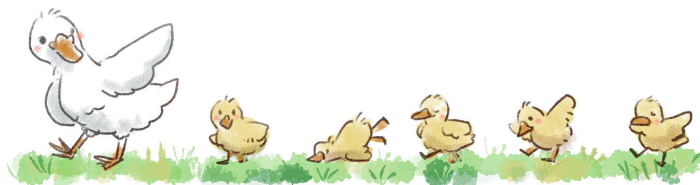
■サヴァ

7月9日、気分転換にラザウオークへ行ってきました。その後はサヴァへ戻り昼食会^^ ラザウオークへ行かなかった方へのお土産はどら焼きでした。



■ラヴィ

ラヴィの良いところは「毎日がレクレーション」暑い昼のスイカ割り、そして明るい中での花火。真夏を満喫しながら、童心に戻り楽しんでました。「暑いのは、もうお腹いっぱい！」



■ボヤージュ

メンバーさんと県立大学と共立高等看護学院の授業へ参加させて頂きました。今までの生活史と今後の夢をまとめたメンバーさんの話は学生の胸を打つものがあったと思います。私たちの味方がたくさん増えますように。



■ボヌール

活動に制限がありますが、夏を楽しむために施設内で、夏祭りを開催。スイカ割り・わたがし・焼きそば、そして盆踊り大会。一つ一つ手作りでみんなで楽しみました。



■グループホーム

玄関先にお花を育てているメンバーさんがいます。朝行く時に“いってらっしゃい”夕方帰ると“おつかれさま”とメンバーさんたちを優しく迎えてくれています。



■カマラド

「新規ケースもてませんか…？」という嬉しい言葉を事業所から頂く事が増えたこと最近。一人ひとりの職員が真摯に対応しているからこそだと実感しています。

リコージャパン山梨支社による研修会を行いました。

SDGsって…私たちが豊かさを求めて生活してきた“つけ”が、社会問題となって現れています。その“つけ”で後世の人たちを困らせないために、今私たちができることを活動にしていけます。未来の社会のために！！



八ヶ岳SDGsスクールの丸茂先生もお越しくださいました。

SDGsについて知らないという職員も多かったので、まずは「SDGsとは？」をテーマにリコージャパンの取り組みについて村松様に説明して頂きました。地球規模の社会課題の解決に向けて、事業所でできることを探してやっていきます。



えんたくんミーティング

その後、ワークショップとして「えんたくんミーティング」を行いました。各事業所ごとに事業を通じた解決課題を決め、えんたくんに自由に書き込むことで、自分たちの事業がどうSDGsと繋がるかイメージすることができました。

J2 ヴァンフォーレ甲府

海なし県の山梨ですが、海にゴミは行かせない！！(ゴミ拾い)



LEADS TO THE OCEAN

八ヶ岳SDGsコミュニティに参加することで、ヴァンフォーレ甲府の方と知り合い広がった輪。ホームゲーム終了後、フロントスタッフとサポーターが丸となり、スタジアム周辺のゴミを拾う活動です。6月27日より蒼溪会も参加しています。ヴァンフォーレ甲府、J1目指してがんばってください。



設営ボランティア

早朝より試合会場の設営ボランティア。ゴミ拾い活動と合わせて始動しています。メンバーさんも自ら手を挙げて参加してくれています。こうした活動を通して、地域のなかに活躍の場は、たくさんあると感じています。

のりさんのつぶやき

「2017年9月9日 “9秒98” 桐生祥秀選手。

その後、「2019年7月“9秒98” 小池祐貴選手、「2019年6月“9秒97” サニブラウン選手、「2021年6月9秒95」山縣亮太選手と続きました。

みなさん、これが何の記録か分かりますか。これは日本の陸上1000m走男子選手が10秒をきった記録です。それまで、アジア人では諸外国の選手との体格差で10秒を切るのは無理と言われていたのですが、桐生選手が突破したあとはそれに続く選手が次々と現れました。

今もマンガみたいだと言われるのが、メジャーリーグのエンゼルスで大活躍している大谷翔平選手。ピッチャーもバッターもやる選手なんて今まで無理だと言われていました。また将棋界では藤井棋士が10代で6冠をとるのではないかと期待されています。

誰かがその限界を突破すれば、それに続く可能性が広がる。蒼溪会は一人一人では無理だなあと考えることを、みんなの力を結集して限界突破していきたいですね。

8月末時点 登録人数

就労支援B型事業所	定員	人数
就労継続支援B型 ケール	20	28
就労支援センター サヴァ	20	31

ライフサポート ラヴィ	定員	人数
生活介護・通所介護	20	32

グループホーム	定員	人数
グループホーム(5ヶ所)	36	35
サテライト	7	2
日中支援型GH ボヌール	20	19
ボヌール 短期	4	3

自立訓練	定員	人数
ライフデザイン ボヤージュ		
宿泊	20	17
通所	21	17
訪問	—	2

相談支援センター カマラド	人数
計画相談	209
地域移行	1
地域定着	3
自立生活援助	7

蒼溪通信

令和3年 Vol. 17

〒400-0226

山梨県南アルプス市有野2826-1

TEL: 055-287-8851

FAX: 055-287-8852

HP: <https://soukeikai.com/>



編集委員： 有野哲章・渡邊充恵・渡辺かおる
横田優太郎・小岱誠史・名取花紗
依田朗子・小澤澄恵